



6月12日 丸瀬布保育所園児さん来園/グリーンプラザ

緑の園  7月号

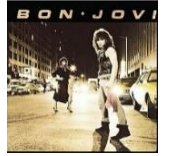
ヒルトップハイツ

グリーンプラザ



デイサービスセンター

だより



第97号

令和6年7月1日発行

Bon Jovi/Bon Jovi(1984)

面会は順調です。皆さまのご協力に感謝いたします。

5月から再開することができた対面での面会は、心配な時期もありましたがすでに複数回来ていただいております。ご家族様もおられ制限があるとはいえとても順調にご面会はできています。



現在の面会方法は、**事前にご連絡をいただき人数を3人以内**に限定し、**新型コロナウイルスワクチン**を接種されている方のみとさせていただきます。

ご利用者様を初め、ご家族各位におかれましてはご不満はあろうかと存じますがご利用者様を守るために最低限必要なこととして、この点をご理解いただけますよう心からお願い申し上げます。

また、**基本的な感染防止対策として、手洗いや手指の消毒、そしてマスクの着用**につきましては切にお願いいたします。



(おわり)

先月の出来事を紹介いたします。

先月はそれぞれの施設におきまして藤の花の見物に行っていました。

父の日にちなんで「プレゼントの贈呈」と記念写真の撮影等お父さへの感謝の気持ちを伝えました。

また、グリーンプラザに12日に丸瀬布保育所園児さんが26日には丸瀬布小学校5・6年生の児童の皆さんが職員から施設の内容についてお話を聞きに来られました。



職員研修を開催いたしました。

先月の5日緑の園/グリーンプラザにおきまして「福祉施設に勤務する職員のストレス対処方法について」と題しまして、旭川医科大学 名誉教授 吉田貴彦 様にご講義いただきました。

職場での安全・衛生、ストレスとはなんであるかだったり、職場におけるコミュニケーションと対人関係、ストレスチェック等について1時間程度の短い時間でしたがお話しいただきました。

吉田先生には遠く旭川市から忙しい中お越しいただき誠にありがとうございました。

普段なかなか聞く事の出来ない貴重なお話しでした。

(終わり)



コーヒージュースの思いで

※缶コーヒーをコーヒージュースと呼ぶMさんの思い出。



いよいよ待ちに待った7月文月(穂見月ともいうそうです)北海道の一年の中で最高の季節と個人的には思います。

さて、そんなさわやかな季節を迎え、この

ころになると思い出される方のお話しを紹介いたします。

もう40年近く前、私が施設職員として駆け出しのころに入園されていた方でMさんと仰る方です。

ある日の午後、Mさんが「〇△\$%?□*!」と大きな声で怒っていました。Mさんに何を怒っていたのか尋ねると「あいつの態度が悪いから文句を言ってやった、ハハハ。」

このMさんシベリア抑留経験があり、そこで覚えたロシア語で時々同室者の悪口?を言っていました。(ひょっとしたら私たちのことも言っていたかも)で、普通にロシア語使って話せるか聞いてみたら「だいぶ忘れた…。」とのことでしたが「悪口は覚えている」とのことでした。

シベリア抑留期間中のことは断片的にはお話しされていましたが、つらい経験だったらしく気楽に思い出話しとして伺うことはなかったです。

Mさんは明治29年生まれ(1896年)だったので昭和61年に入所されたときにはすでに90歳でした。

Mさんは職位が高かった人らしく同居する

利用者さんとのトラブルが結構多く、職位からそうさせるのか性格的なものなのか定かではなかったですがとにかくいざこざには事欠かない方でした。

利用者間はもちろんのこと入所される際に窓口となったご近所の〇〇さんに対しては「あのやろー」状態で嫌ってました。

しかしながら、職位が高かった方で管理職だったからなのか言葉遣いは丁寧で「××なのですか?」とか「※※していただきたい」と言ったように話され、「私は近所の〇〇にだまされてここ(施設)に入れられたのです」はもちろんのこと「〇〇にお金を盗まれました」等入所後は訴えておられました。



だからといって私をはじめ、職員に対しては特に不満を述べられることはなく「みんな若いからしょうがないよ。」と寛容で優しかったことを覚えています。(駆け出しの私達でしたのでけっこう迷惑をかけたと思いますが…。)



ある時Mさんが私に「おばらさん自分の家どうなっているか見に行きたい…。」と仰られたのでこの方の嫌いな、家を管理している近所の〇〇さんをお願いして私と二人で2~3回自宅に行ってきました。

家の中はいろいろなものが散乱し、埃が積もっていて入ると埃が巻き上がりとても住めるような状況ではなかったですがきちんと靴を脱いで入りました。

当然ですが二人とも体や顔まで真っ黒になって帰ってきました。



他の利用者さんとは、日常的に何かしら**もめ事**を起こすMさんでしたのでかなり居室を替わりました。

しかし、徐々に体も弱りベッド上で静かに横になっていることが多くなって**いざこざ**を起こすことはなくなりました。(Mさんは都合が悪くなると耳が遠くなりました…。)

Mさんの最後は7月のすごく天気の良い日、入院先の網走の病院に私がお見舞いに伺い、看護師さんをお願いしてから数分後息を引き取られたと、施設に戻る途中に連絡がありました。(うそみたいな話だけど本当です)

Mさんは石川県のご出身でお子さんを授かることはなく弟さんが一人だけ遠く石川県におられました。

なので、ひとしきり葬儀を施設で行い後日来道した弟さんに遺品を引き渡しました。

Mさんは弟さんに自宅に行ったことなど手紙で伝えていたらしく身に余るほどの感謝のお言葉を弟さんから頂戴しました。つらいことも多いこの仕事ですが人から感謝されたときの感動を強く感じた出来事でした。

今月もどうぞよろしくです。おばら